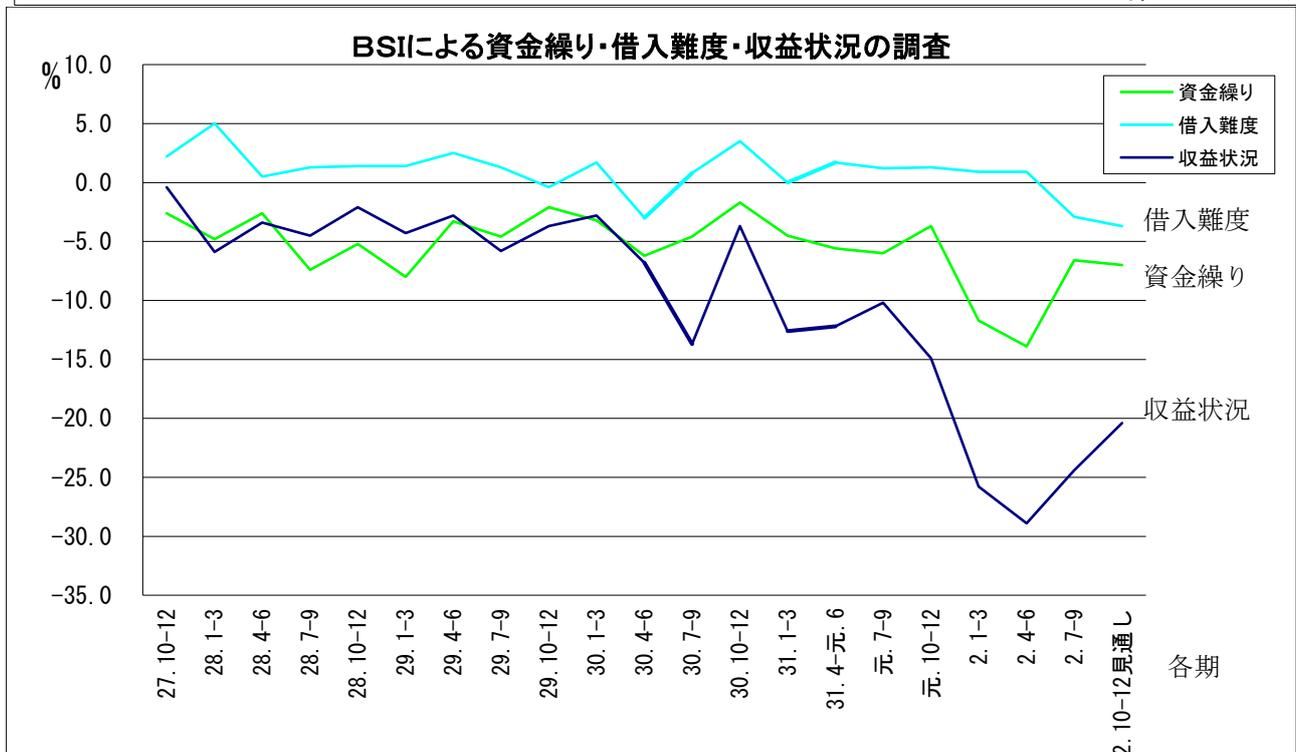
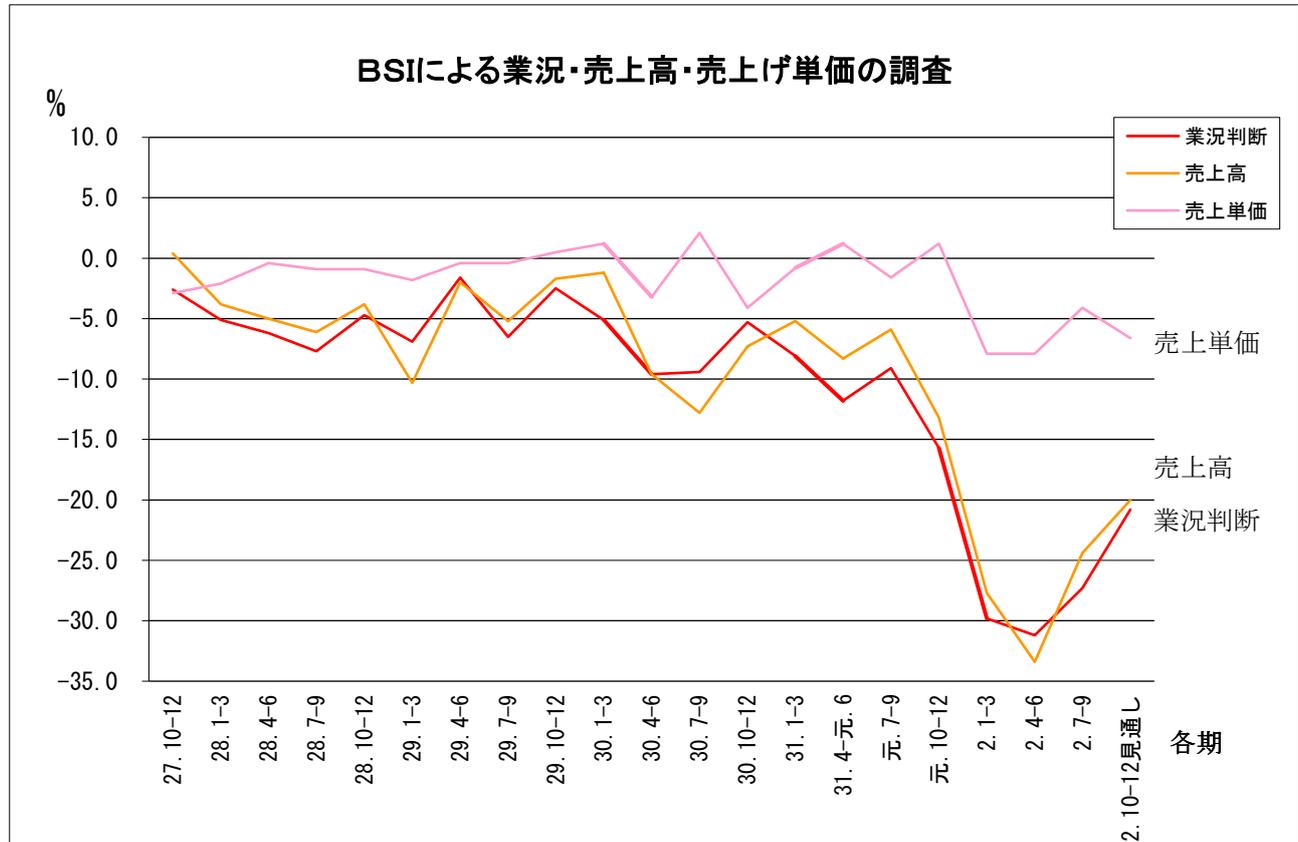


業況判断は1年振りの上昇。来期は今期以上の上昇予測。

中小企業景況調査令和2年7-9月期(令和2年10-12月期予測)

—鳥取県下4商工会議所の調査より—



*BSI=(上昇・増加-減少・下降)×1/2 (但し、「上昇・増加」+「横ばい」+「減少・下降」=100)
 経営者の業況に対するマインドを反映するもの。(0%は「上昇・増加」と「減少・下降」が同数。「+」は上昇・増加、「-」は減少・下降)

■業況(グラフ参照)は・・・

「業況判断」は全産業で上昇しました。特に「製造業」「小売業」が大きな上昇がみられました。来期も引き続き全産業で上昇することが予測されています。特に「サービス業」「製造業」「建設業」では大きな上昇が予測されています。

「売上高」の上昇は「小売業」での上昇、「資金繰り」の上昇は「製造業」「サービス業」の上昇が大きく反映されています。

「収益状況」では「小売業」の圧倒的な上昇の半面、「建設業」は下降しました。

「借入難度」の減少は「サービス業」を除いた他産業の減少が原因です。特に「製造業」には大きな下降がみられました。

■直面している経営上の問題点

- 1位: 売上・受注の減少(21.75%)
- 2位: 消費・需要の停滞(15.54%)
- 3位: 経費の増加(10.73%)
- 4位: 競争激化(10.17%)
- 5位: 利益率低下(8.76%)

■各社からのその他の問題点

- ・公共工事の切れ目のない発注を要望する(建設業)
- ・新型コロナウイルスの影響で、新規工事が発注されない。大手もしばらく様子を見ての動きになるのではないかといつまでの期限のない状態なので、今後をどうするのか悩みどころにある。(建設業)
- ・WEB会議などを推進する補助金を作るのはいいが、それを実施するハード(タブレット・PC)のスペックが低いと、そもそもWEB会議も出でうまくいかない。汎用性があるものは補助金の対象にしにくい部分は理解できるがIT化を本当に後押ししようとしているか疑問が残る(製造業)
- ・一部の顧客に受注増がみられるものの、全体に厳しい状況が続いている。雇用調整助成金の更なる延長をお願いしたい。(製造業)
- ・人的交流不足による販売力低下。(製造業)
- ・業種的にコロナの影響は大きく受けなかったが、一般的には現状維持できていることが最高の状態だと思われる。世の中が少し変わってくると思うので、行政機関には、まずは人・会社への支援、加えて将来を見越して、巻き返しを考えている人・会社への支援などを考えて頂きたい。(製造業)
- ・不動産の修繕費の増加(サービス業)
- ・現在、「Goto キャンペーン」の影響で、利用数は減少したものの、単価上昇により売上高は増加している。但し、これからの忘年会客は大幅減少しており、又「Goto キャンペーン」以降の反動による落ち込みの対応を考えなければならない。(サービス業)
- ・コロナ禍突入以降、衰退市場から新しい分野に進出する(せざるを得ない)という傾向がみられ、成長市場とまでは言わないまでも比較的キープできている業態への新規参入が既存企業を苦しめる結果を導くことを懸念しています。供給側の市場バランスを保つためにも極端な規制緩和を避ける政策を望みます。(卸売業)
- ・国全体から見ると、鳥取県は患者数は少ないですが、心理的なものは大きく、買い控えにつながっているかと思います。(小売業)
- ・買い控えを感じる。(小売業)